



私はマラウイの北部に位置するムジンバ県の小学校で6年生に主に算数を教える授業に取り組んだ。日本の当たり前が通用しないと頭では分かっていたが、言いたいことが通じない、突然始まる4時間

JICA
だより

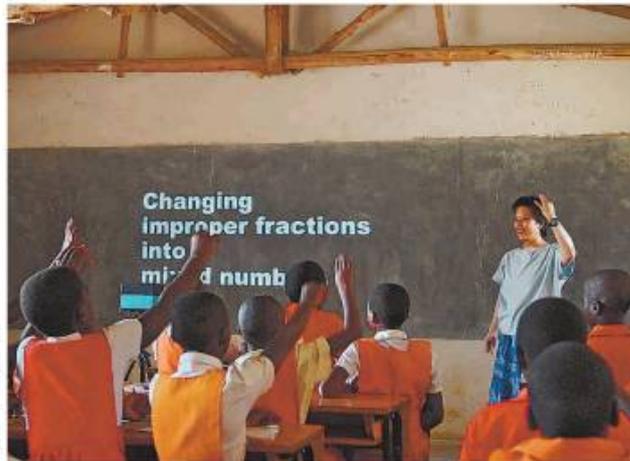


マラウイ共和国
千田成美さん(31)
広島市佐伯区出身

もの会議、お葬式のたびに先生たちが一斉に不在となるため授業が中止になるなど、現実には想像以上だった。マラウイで過ごす毎日にもどかしさを感じ、いらだちを覚えていた。それでも

文化や習慣を学び適応

半年ほど経つと、彼らを責めるのではなく、自分が変わるべきだと気づき、彼らを知り、学ぶことから始めることにした。



小学6年生に算数を教える筆者(奥右端)

の時間を大事にしていた。ほかにもフラッシュカードやかけ算カード、10マス計算用紙の導入、週1の小テスト、放課後の補習教室……。日本の折り紙やけん玉、縄跳び、ちぎり絵など、彼らの興味を引きそうなことは何でもやった。すると協力的な児童や教員が徐々に増えてきて、児童の成績も少しずつ向上した。頻繁に起きる停電や水しか出ないシャワー、時間の

毎日の授業で彼らの文化や習慣に合わせて歌を取り入れたり、図や絵で説明したりするなどの工夫をし、教員や児童との会話や遊びの時間を大事にしていた。ほかにもフラッシュカードやかけ算カード、10マス計算用紙の導入、週1の小テスト、放課後の補習教室……。日本の折り紙やけん玉、縄跳び、ちぎり絵など、彼らの興味を引きそうなことは何でもやった。すると協力的な児童や教員が徐々に増えてきて、児童の成績も少しずつ向上した。頻繁に起きる停電や水しか出ないシャワー、時間の

行動し続けた。